

H20岩手・宮城内陸地震災害の事例

- 平成20年6月14日、岩手県内陸南部を震源とするM7.2(最大震度6強)の地震が発生し、大規模な山腹崩壊・地すべりが多発。
- 地震発生直後より、森林管理局・署の組織を活用しつつ、治山技術者による被災状況の把握、専門家の派遣など、国による緊急対策を実施。
- 規模が著しく大きく高度な技術を要する大規模山地災害箇所について、岩手、宮城両県からの要請を受け民有林直轄治山事業に着手。

大規模山地災害の発生



岩手県

いちのせきし いちのぼら
岩手県一関市(市野々原)



宮城県

くりはらし こうえい
宮城県栗原市(耕栄)



くりはらし ぬるゆ
宮城県栗原市(湯温)



くりはらし どうまん
宮城県栗原市(洞万)

森林管理局・署等による緊急対応



↑ヘリコプターによる緊急調査



↑治山技術者、専門家による
現地調査



↑国道の迂回路として活用
するための林道整備

ヘリコプター等による緊急調査、2次災害防止のための土石流センサー等の設置、国有林林道の国道迂回路への活用等の応急対策の実施

[緊急対応として他局等から延べ247人日応援派遣]

直轄事業の実施についての県からの要請

事業規模が著しく大きく高度な技術を要することから、県は国に対し直轄事業の実施を要請。

県からの要請を受け、岩手県(市野々原地区)における民有林直轄治山事業の直轄区域の拡大及び宮城県(迫川地区)における民有林直轄治山事業の新規着手。

本格復旧に向け、治山技術者の増員配置(民有林、国有林計):
岩手南部署 4名→8名 宮城北部署 3名→12名